

東奥日報

2017年(平成29)5月16日 火曜日 (12)

八工大の海洋技術者育成 実習活動費軽減へ

日本財団設立の団体参加

八戸

海洋技術者の育成へ、国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）と連携している八戸工業大学は、日本財団が設立した産官学公による団体に参加し、育成に必要な費用面の支援を受けることになった。JAMSTECとの連



コンソーシアムの参加について会見する八戸工業大の長谷川学長

携で行う実習活動などについて、学生が負担する実費などの軽減を図る。15日、長谷川明学長が同大で会見し、参加を発表した。八工大が参加するのは昨秋発足した「日本財団オーシャンイノベーションコンソーシアム」（事務局・東京）。国内16大学や海洋関連12社、同機構などが参加

する。八工大の参加は東北の大学としては秋田大学に続き2大学目という。

国は地方創生の一環として、国や独立行政法人の一部研究機能を全国の地方大学などへ移転する構想を推進中。同大には同機構の研究者が講師として派遣されるなど既に連携を強めている。同大は18年度、工学部の2学科に海洋学の副コースを設置する方針だ。

会見で長谷川学長は、副コース設置に伴い、海洋での実地研修などに同大学生

が参加する機会が増えることを想定。「コンソーシアム参加で関係機関との連携を強め、研修に赴く学生の旅費を財団に支援してもらおうなど、学生の負担を軽減できると意義を説明した。」

また長谷川学長は、コンソーシアム参加で同機構の地球深部探査船「ちきゅう」などに学生が体験乗船することも「可能になるかもしれない」と期待。「学生には夢を持って、海洋研究を体験してもらいたい」と力を込めた。（若松清巳）

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」